

SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

花様年華

(IN THE MOOD FOR LOVE)

2000年・香港映画・98分

配給／松竹

2002 (平成14) 年12月30日鑑賞

<ホクテン座・中国映画特集>

Data

監督・脚本・製作：王家衛 (ウオン・カーウアイ)

出演：梁朝偉 (トニー・レオン) /
張曼玉 (マギー・チャン) /
瀧田華 (レベッカ・パン)

👁️👁️ みどころ

舞台は1960年代の香港。同じアパートの隣同士に引っ越してきた夫婦が、お互いの夫と妻の不倫を知って急接近！珍しく、王家衛 (ウオン・カーウアイ) 監督が取りあげた不倫モノだが、張曼玉 (マギー・チャン) のチャイナドレス姿の美しさは生ツバもので必見！

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<テーマは不倫！>

王家衛 (ウオン・カーウアイ) 監督が珍しく不倫をテーマに取り組んだ作品がコレ。舞台は1960年代の香港。言うまでもなく、香港は狭い国土の中に多くの人間が住んでいるから、住宅事情は厳しい。そのため、1つのアパートの中に何世帯もの家族が住むという香港の住宅事情は、昔の日本のアパートとよく似た雰囲気……。そんなアパートの隣同士の部屋に引っ越してきたのが、チャン (張曼玉/マギー・チャン) とチャウ (梁朝偉/トニー・レオン)。2人とも夫や妻がいるはずだが、引っ越し作業当日は、なぜかそれぞれ1人だけ。もちろん最初この2人は、隣人同士になる者としてのあいさつを交わしただけの出会いだったが……？

<不倫のきっかけは？>

男女の出会いや不倫の開始には当然何らかのきっかけがあるもの。この映画のそれは、非常に面白く仕組まれている。もし男のあなたにとって、隣に住む人妻が自分の妻と同じバッグをもっていたら……。？また、女のあなたにとって、隣に住む亭主があなたの夫と同じネクタイをしていたら……。？それはちょっとヤバイ……。！オレは、そして私は、真面目に仕事をしているのに、ウチの嫁は……。？そして、私の夫は……。？と思うのは

当然。

この映画が面白いのは、それを発見した2人は、そこからさらに発展して、お互いの妻と夫に対する復讐のため、オレ達も・・・、私達も・・・となったこと。しかもこの2人が、とびきりの美男美女ときているから、その不倫への模索はちょっと面白い・・・。

<不倫の中で表れる人間性>

英語タイトルの「IN THE MOOD FOR LOVE」の「MOOD」は、雰囲気ではなく、環境、境遇ということらしい。

つまり、お互いの夫や妻の不倫が見えた、という境遇におかれたから、自分たちも・・・というわけだ。しかし、それって、自分が不倫をするための弁解、言い訳では・・・？

「もう深夜よ。奥さんは怒らないの？」と問うチャンに対して、チャウは「以前はね。今は無視だ」と答えたとえ、今度は「ご主人は？」とチャンに問いかけると、チャンは「もう寝ているわ」と答える2人の会話は実に面白い。引越作業をテキパキとこなす2人やこのような会話を交わす2人からわかることは、チャンもチャウも、もともとは真面目なタイプということ。とりわけチャンは、浮気はダメだと信じ、家庭と仕事をきっちりこなしてきた超真面目タイプの女性。こんな2人が、雑踏の香港のまちの中

のある一軒の店でデートを重ねる姿や、約束したホテルの中で交わす言葉は、すごく静かに描かれているが、そのためかえって刺激的！こんな2人の不倫の行き着く先は・・・？

<張曼玉の美しさは生ツバもの！>

不倫をテーマとしたこの映画のストーリーもよくできているが、何といってもその見ど



【花樣年華】

ビデオ&DVD販売元：松竹(株)ビデオ事業室

価格：2,500円(税込)

11月25日～1月末まで低価格キャンペーン実施中

ころは、張曼玉の魅力。とりわけそのチャイナドレス姿の魅力は生ツバもの！1964年生まれの張曼玉はこの映画の時は36歳だが、パンフレット等によると、チャイナドレスを着ると、たとえ100gでも体重の増減があればわかってしまうとのこと。そのため撮影中は、よく「太ったね、痩せたね」と言われ、その度にドレスを微調整したとのこと。このような陰の努力を重ねながら、手を変え品を変えて(?)再三再四登場する張曼玉のチャイナドレス姿は本当に美しく、成熟した人妻の香りをムンムンと発散させている。『宋家の三姉妹』(97年)で次女慶齡を演じた張曼玉は、前半は孫文の秘書としてテキパキと仕事をこなす優秀な助手の姿を、そして後半は共産党を支援して、蒋介石と対決する革命の闘士の姿を見事に演じていたが、この映画では、そのチャイナドレスの美しさが絶品。後にも先にもこんな美しいチャイナドレス姿が登場する映画は存在しないだろう。もっとも、こんな女の魅力タップリの張曼玉だが、この映画の中には露骨なベッドシーンなどは全くなし。「今の基準」からみれば、その点において多少不満が残るかも・・・?

2004(平成16)年7月30日記